

施策番号	2706		
施策名	水辺環境の整備		
概要	河川の整備等により浸水被害リスクを軽減させ、都市型水害の最小化をめざすとともに、概ね10年に1回起こりうる洪水に備えた治水対策を進める。また、市民に身近な水辺環境の創出をめざす。		
担当局・部室	建設局・水と緑環境部	共管局・部室	
上位政策	27 くらしの水		
施策に関する主な分野別計画等	京都市河川整備方針		

### 施策の評価

#### 1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1 平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率(%)	-	a	87.6	87.7	87.7	100.0%	a	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		a	客観指標総合評価				a	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	126	245	127	49	24	571	b	
	22.1%	42.9%	22.2%	8.6%	4.2%			
2 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	250	193	69	20	18	550	a	
	45.5%	35.1%	12.5%	3.6%	3.3%			
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
		市民生活実感調査総合評価						a



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

### 3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					23 年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 治水対策は、概ね10年に1回の確率で起こりうる洪水に対応することを目標としており、たとえ実際に洪水が起きず、市民が浸水被害の発生を実感しなくとも、行政の責任において遂行すべき取組であるため、客観指標評価を重視する。						年 度	-
(原因分析) ・客観指標、市民の実感ともにa評価であった。これは、局地的集中豪雨の頻発傾向にある中、本市ではこれまでから都市型水害の最小化を目指し、河川の整備を進めているため、その結果として高い評価につながったと考える。 ・市民の実感のうち1つ目の設問について、肯定的回答が6割を超えているため、山紫水明といった京都らしい川や水辺に対する市民の方の愛着がうかがえる。							

#### 今後の方向性の検討

#### <この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

#### <今後の方向性>

・平成23年度に策定した「京都市河川整備方針」に基づき、浸水被害のリスク軽減や都市型水害の最小化を目指すとともに、概ね10年に1回起こりうる洪水に備えた治水対策を進める。  
 ・市民生活実感評価では「京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。」の設問でb評価であったため、a評価を目指し、治水対策のみならず、市民に身近な水辺環境の創出をより一層推進する。

施策名	2706	水辺環境の整備									
指標名	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率（％）										
担当課	河川整備課	連絡先	2 2 2 - 3 5 9 1								
<b>1 指標の説明</b>											
平成16年の記録的豪雨の際に河川からの溢水による浸水被害があった河川の改修実施率											
<b>2 指標の意味</b>			<b>3 算出方法・出典等</b>								
浸水被害の低減に向けた河川の整備状況を示す指標			算出方法：H16浸水被害河川整備延長÷H16浸水被害河川計画延長×100 出典：事業担当課調べ								
<b>4 数値</b>											
	前回数値	最新数値	推移	目標値							
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度					
数値	87.6	87.7	0.1ポイント増	87.7	平成16年度浸水被害発生河川における当該年度の目標改修率	100.0%					
	全国順位	中長期目標			備考						
		数値	目標年次	達成度							
数値		88.3	26年度	99.3%							
		平成16年度浸水被害発生河川における中長期目標年度の目標改修率									
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>							
最新値をx、(目標値-前回値)をyとしたとき、 a：目標値 $\leq$ x b：前回値+y*2/3 $\leq$ x<目標値 c：前回値+y*1/3 $\leq$ x<前回値+y*2/3 d：前回値<x<前回値+y*1/3 e：x=前回値		目標値を達成することは不可能ではないが、財政状況の寄与度が高いことから、目標値以上の達成をaとし、5段階に基準を設定した。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>23</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>a</td> <td>a</td> </tr> </table>			23	24	-	a	a
	23	24									
-	a	a									